

松下幸之助財団 教員フェローシップ

「種子島のアカウミガメ保全」プログラム参加報告

鹿児島県南九州市立知覧中学校

教諭 田 嶋 一 樹

1. 調査での気づき

鹿児島県で生まれ育った私にとって、ウミガメとは地元メディア等でよく取り上げられ結構身近なものでした。しかし、このプログラムに参加してあらためていろんなことを学ぶことができました。

私のグループの調査内容はふ化して脱出してきた子カメを採集し甲羅の数や形状を測定し、安全に海へ返すというものでした。亀の甲羅の「亀甲模様」の配列（鱗板配列）の異変を記録するというものです。種によって配列は異なるということは以前から知っていましたが、同じ種でも異なることがあるというのはなぜなのかとても興味深い点でした。自然界の神秘性に気づかされる一面でした。



2. 調査内容で得た知識を応用した授業実施の概要

単元名：2年生 2クラス（59名）

理科 動物の世界

授業のねらい：セキツイ動物のからだのつくりやふえ方等の特徴を基にグループ分けをすることができる。

授業の流れ①いくつかの動物の画像を見て脊椎動物と無脊椎動物の2つに分ける。

（2つのグループに分けるとしたらどんな基準で分けるか。）

②セキツイ動物の子のふやし方、卵が育つ場所、子の食物の取り方、呼吸のし方を表にまとめる。

ウミガメ（爬虫類）の生態をパワーポイントと調査に参加して撮影したウミガメの動画（夜間に脱出する様子）で解説。



③今まとめた表を参考にして、各動物のグループ分けを行う。

④今日の授業のまとめを行う。

3. 授業実施時の子どもたちの反応や感想

生徒の反応はさまざまでした。特にウミガメが砂の中から元気よく脱出する動画では、数名の生徒から歓声があがりました。生徒の目が輝く瞬間でもありました。また、本校の校区にある浜辺（知覧松ヶ浦シーサイドパーク）では毎年小学生を中心にウミガメの放流会をしているらしく、放流の体験を話してくれる生徒も見られました。やはり、実体験に裏打ちされた話には説得力があると実感しました。

4. 授業を実施してみた自身の感想

一方的に知識を教えるだけでなく、その知識を活用させる場面も授業内に取り入れることで、生徒の学習効果はより高まると感じました。実際にウミガメがふ化して砂の中から脱出するのを見たのは初めてのことで、とても興奮しました。そして、その感動を生徒たちにも伝えることができたと感じました。また、生徒たちがウミガメをきっかけに動物についての知識を得るだけでなく、地球環境や生物の研究にふれるいい機会でもあったと感じました。

5. 自身の体験を語ることによる子どもたちの学びへの影響について一言

昨今の情報技術の発達によりSNS やゲームが身近になり自然体験の機会が減りつつある子どもたち。そのような時代だからこそ、教師が専門の研究者のもとで最前線の科学にふれ、その体験を生徒に橋渡しする事は大変有意義なものだと思います。

若い時からよく「教科書を教えるのではなく教科書で教えろ」と言われてきましたが、自分の体験をもとに、自然を生徒に語るよい機会になりました。そして、このようなプログラムに参加しなければ、体験できない、また、もしかすると一生出会う機会がなかったかもしれない「アカウミガメ」。これからも種子島の海、いや世界中の海で元気よく生きて欲しい・・・。